

# 事務事業評価

平成 31 年度

		担当課	学校教育課					
基本事項	事務事業名	中学生海外訪問交流事業					整理番号	2213
	根拠法令等						実施を義務付ける規定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
	関連する市勢振興計画の基本計画	章	第7章 生きる力と創造力を持った人を育てる	予算科目	10 款	1 項	2 目	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 新規
		節	第2節 義務教育の充実	事業区分	市民サービス事業			
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	平成6年度から始まった事業で、当初は、噴火災害後の島原の中学生を励ますことを主な目的としていたが、近年は、グローバル化が進む国際社会への対応として、重要な事業であると位置付けている。					計画期間	始期 平成 6 年度から 終期 平成 年度まで
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目的 (どのような状態にしたいのか)	対 象:本市の中学3年生 訪問国:香港(平成27年度まではシンガポール) 目 的:将来の島原市を担う心身ともにたくましい人材の育成を目指し、本市の中学生に、海外の教育関係施設やジオパークの見学、及び現地中学生との交流活動を通して、国際的視野の拡大と国際親善に努める素地を培う。						
	目的達成のための 具体的手段・方法	① 参加者の目的意識を高め、有意義な訪問とするため、英会話やジオパークに関する事前研修会を3回実施する。 ② 体験をとおして学んだことを共有するために、帰国後、研修報告会を実施する。						
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名 称 等 ( 内 容 )		単 位	29 年 度	30 年 度	31 年 度	
		①事業実施後のアンケート 生徒の4段階評価において「たいへんよかった」が90%以上となることを目指す。		目標	%	80	80	90
	活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	②		実績	%	80	93.3	
①3回の事前研修会を実施 ・参加生徒の目的意識を高め、より効果的な海外訪問交流事業となるようにする。		達成率	%	100.0	116.6	0.0		
活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	②報告会を実施 ・それぞれの生徒が体験したことをもとに研修成果を発表し、学びを共有する場とする。		目標	回	3	3	3	
			実績	回	3	3		
年度	区分		27 年 度	28 年 度	29 年 度	30 年 度	31 年 度	2 年 度
			実績値	実績値	実績値	実績値	予 算	計 画
事業費等の推移	①直接事業費(千円)		3,168	3,197	3,479	3,721	4,055	4,055
	財源内訳	国 県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他	2,238	2,298	2,319	2,319	2,319	2319
		一 般 財 源	930	899	1,160	1,402	1,736	1,736
	②従事職員給与費 b1×b2		893	898	906	920	904	904
従事職員数(人) b1		0.12	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12	
職員平均人件費 b2		7,438	7,484	7,546	7,663	7,530	7,530	
事業費合計 ① + ②		4,061	4,095	4,385	4,641	4,959	4,959	

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている グローバル化が進み、英語力の向上、英会話の必要性、国際社会に生きることが、以前にも増して求められている。	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 対象が、中学生であり、行政・学校の関わりは、欠かせない。本事業の民間への委譲は、むずかしい。	B
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 15名の中学生を選考し派遣しているが、選考が難しい。	B
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか (成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成)	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 香港での交流活動をととして、訪問団員は、語学力特に英語の必要性を強く感じている。また、国際的視野の拡大に繋がっている。	A
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 現在の日程で、十分に成果が得られている。利便性や生徒の負担等を考えると現状維持が望ましい。	A
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか (活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成)	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 4泊5日の日程のため、夏季休業中に訪問を実施している。猛暑の中での訪問であり、旅行日程には余裕が必要である。	A
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 島原市内の中学生を対象とした取組であり、事前研修会や報告会を計画的に実施しているため、現状維持が望ましい。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある 訪問先については、直接手配を行っている。ただし、在日本総領事館など公的な機関との連携については、旅行者からのアポイントメントは難しい。内容の一部を旅行会社へ委託することも検討したい。	B
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 個人負担は、渡航料金の一部(30,000円)と、パスポートの申請にかかる経費のみ(11,500円程度)である。	A
	⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか	A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	A
判定評点平均（3点満点）			2.70
A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			

◎ 総合自己評価（所管部署）

評価結果	<input checked="" type="radio"/> A 継続実施(特段の見直しは行わない) <input type="radio"/> B 改善・見直しを行う <input type="radio"/> B1 事業規模の拡充 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止(隔年実施などへの変更) <input type="radio"/> D 廃止(終期の設定等を含む)	判断理由 訪問後のアンケートや生徒の報告書からも、本事業が生徒にとって価値のある体験学習となっていることが分かる。これからの時代を生きる子どもたちには、国際的な視野を持つことが必須であり、本事業に対する期待はますます大きくなっていくものと思われる。よって、継続実施をお願いしたい。
	今後の課題及び改善策、見直しの状況 (実施上の課題等) ① 訪問生徒の選考方法、訪問先を見直す。 ② 訪問に係る費用の一部を保護者負担とする。	
・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載してください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載してください。		

【2次評価】

総合判定	B4見直しのうえで実施 ⇒ その他の見直し
備考	グローバル化の進展に伴い国際的な視野を身に着けるという観点からも、事業の必要性は大きい。限られた少数の生徒が参加するものであるが、より一層、他の生徒への成果等の共有化を進めてほしい。また、近年、事業費が増加傾向にあるため訪問先や費用負担の見直しを検討する必要がある。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費削減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの削減	④ <input checked="" type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	-13 (千円)